発行：新建新聞社　1995年6月30日第3種郵便物認可

毎月10・20・30日発行 1995年3月31日創刊

変えよう！
ニッポンの
家づくり

新建ハウジング

THE SHINKEN HOUSING

2021
5|10
Vol.896

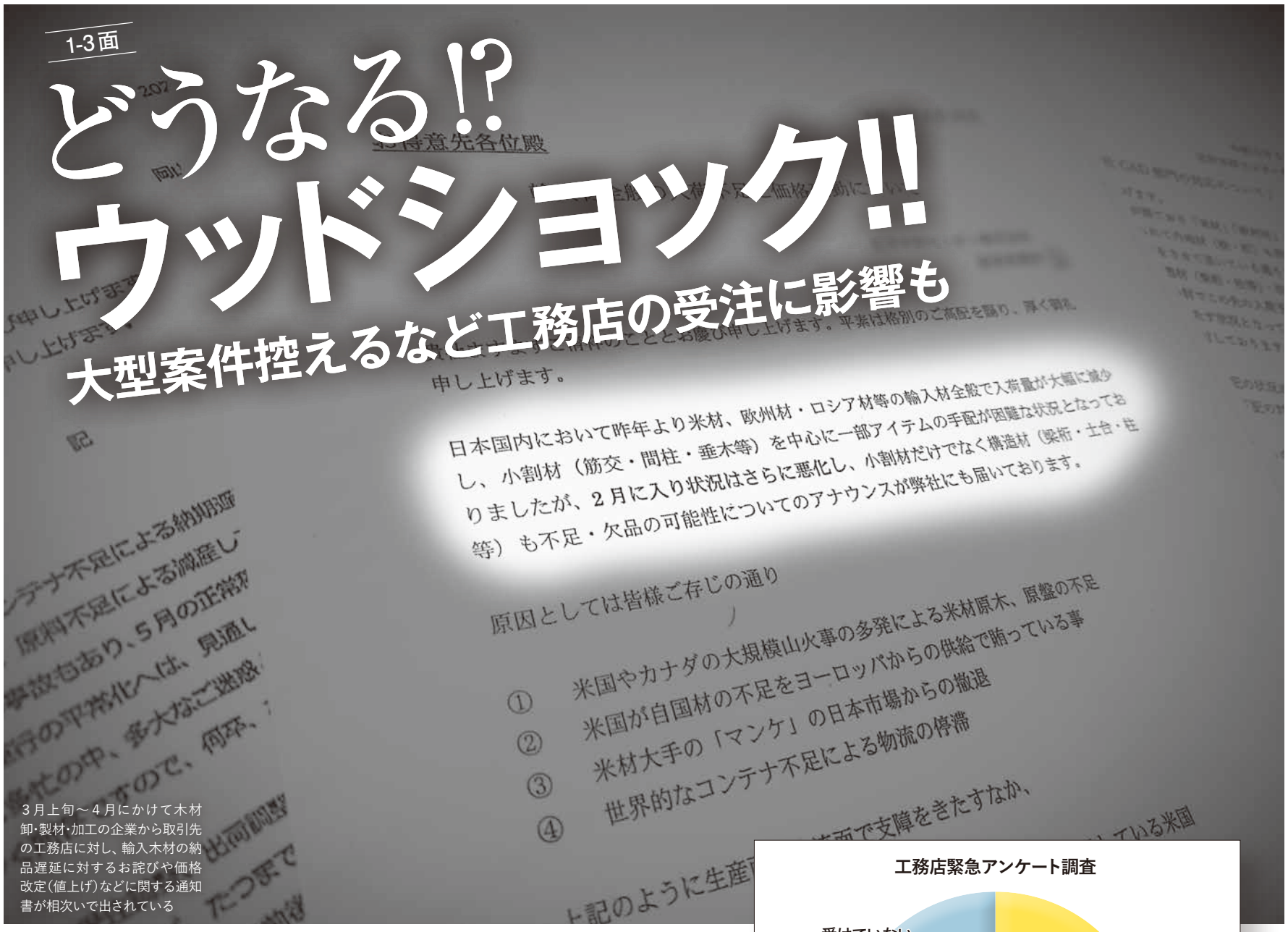
4･5面	連載	nano工務店の経営術～完成度の高い“箱”にDIYを組み込む
7面	連載	エコハウス設計メソッド～太陽光発電の常識が大きく変化～
8面	データ	3月の住宅展示場来場者数、7カ月ぶりに増加
16面	脱炭素	住宅業界は何をすべきか!?脱炭素住宅検討委員らに公開取材

CO_2を自動測定し、コロナ三密対策に。
ダクトレス熱交換換気システム
「せせらぎ®」AQ
＋ウイルス除菌フィルター
新発売
PASSIV ENERGIE JAPAN
— 未来へつなぐ家…パッシブデザイン —
パッシブエネルギージャパン株式会社
☎03-6433-2831
せせらぎ 換気
ISO9001認証取得
GOOD DESIGN

1-3面

どうなる!? ウッドショック!!

大型案件控えるなど工務店の受注に影響も



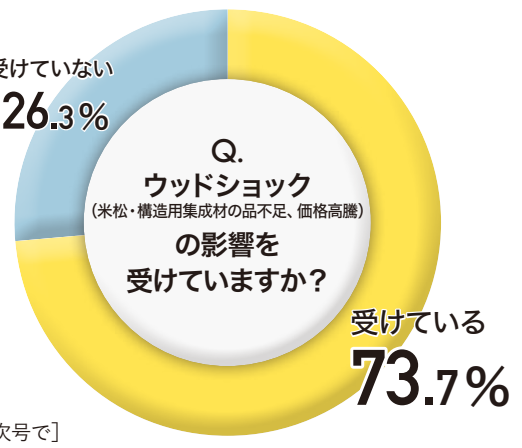
3月上旬～4月にかけて木材卸･製材･加工の企業から取引先の工務店に対し、輸入木材の納品遅延に対するお詫びや価格改定（値上げ）などに関する通知書が相次いで出されている

欧米や中国での木材需要の拡大や、コロナ禍の混乱による海上輸送用のコンテナ不足・運賃高騰などが相まって、国内市場で米松（ベイマツ）や欧州材の供給不足、価格急騰といった「ウッドショック」とも言える状況が深刻化しつつあり、地域工務店の家づくりにも影響を及ぼしている。

全国各地にある木材卸会社や製材・加工会社からは、3月上旬から4月にかけて、取引先である地域の工務店に対し、輸入木材の納品遅延のお詫びや今後の見通し、価格改定（値上げ）などに関する通知書が相次いで出されている。

内容を見ると「過去に例を見ない程の世界的な木材価格の上昇です。原油価格の上昇やコンテナ不足の影響による輸送コストの増大もあり価格維持が極めて困難な状況」「梁桁・柱とも120（巾・角）材が枯渇しており、120仕様は受注できません」「75坪超の大型はお断りします」「状況が改善されるまで見積もりはお得意様のみとします」など、切迫した状況がうかがえる。

工務店緊急アンケート調査



［詳細は次号で］

本紙では4月16日～28日、全国の工務店・住宅関連事業者を対象に、ウッドショックの影響などについて聞く緊急アンケート調査を実施。114社のうち、73.7%が「影響を受けている」と回答。今後の受注や国産材への影響を不安視する声があがった。同アンケート結果の詳細は次号（5月20日）掲載予定。

新建ハウジングがオンラインで読める！

定期購読をされている方限定で、「タブロイド判」「別冊付録」をオンラインで閲覧できるサービスを提供中です。
ログインページ：https://www.s-housing.jp/webviewer
※IDとパスワードがわからない方は、右記フリーダイヤルまでご連絡ください。

お問合せ・定期購読お申込み先
0120-47-4341（シンブン ヨミヨイ）
購読料：29,040円（税込）／年　毎月10･20･30日（別冊付録）発行
新建ハウジング DIGITAL
https://www.s-housing.jp

新建新聞社
東京
〒102-0083　東京都千代田区麹町2丁目3番地3 FDC麹町ビル7階
TEL（03）3556-5525　FAX（03）3556-5526
長野
〒380-8622　長野県長野市南県町686-8
TEL（026）234-1211　FAX（026）234-1310

Pickup NEWS　どうなる!?ウッドショック!!　大型案件控えるなど工務店の受注に影響も

ウッドショック

林野庁との協議で業界団体からは「危機的状況は間近」「プレカット工場が窮地に」の声

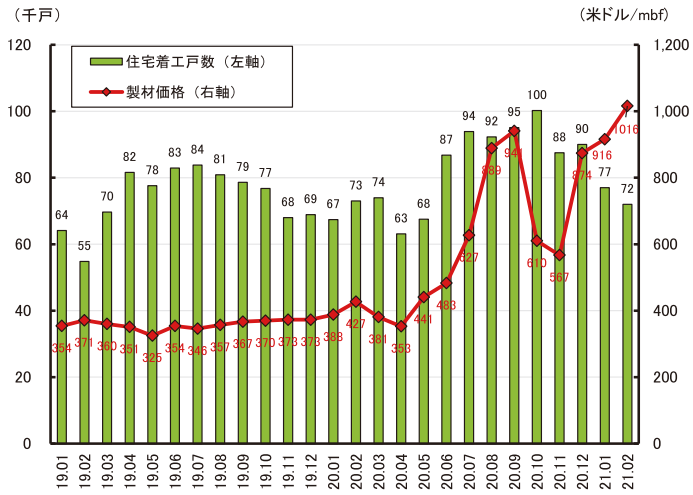
輸入材の不足や価格高騰に対し、各地の工務店経営者らから、焦りの声も聞こえてきた。滋賀県の工務店（年間新築30～40棟）の経営者は「６月までは目途が立っているが、７月以降の上棟分は契約ができない状況。先行きが不透明で不安で仕方ない」と嘆く。長崎県の工務店（同30棟）の幹部は「２月には材木関係者から情報をつかんで備えていたため、今年いっぱいは何とか持ちこたえられそう。夏以降に大型を取る計画は取りやめた」と話す。山梨県の年間新築受注５棟の小規模工務店の経営者は「昨年の緊急事態宣言の時に実質無利子・無担保の融資を受けた。夏以降、木材が調達できない状況が続くと、（受注できずに）またお金を借りなければならないが、返済もあるのに追加融資を受けられるのか」と不安をもらす。

こうした「ウッドショック」とも言える状況を受け、森林・林業・住宅関連など各団体は、会員に対してヒアリングを行いながら、国と協議するなどして対策を進めようとしているが、国外の複数の要件が絡み合って起きていることだけに「いつまで続くのか、悪化するのか、改善に向かうのか」は見通しにくい状況だ。「国産材で代替を」との動きもあるが、木材生産・流通の構造や中長期的な需給を踏まえると、即時対応は難しいと見られる。

林野庁が業界団体と対応協議

そんな中、林野庁は４月14日、JBN・全国工務店協会や日本木造住宅産業協会、林業・木材・プレカット関連団体、学識者などを集め、「国産材の安定供給体制の構築に向けた中央需給情報連絡協議会」の臨時情報交換会を開催。輸入材の供給量や価格などを含めて現状や今後の見通しなどについて確認・共有しながら、国産材への影響、川上（森林・林業）から川中（製材・加工）、川下（住宅・建築）までが連携した対応などについて話し合った。

会議に出席したJBNの岩崎誠さんは「当協会は中小工務店が大多数を占めているが、正直、活路が見えない。消費者に価格転嫁への協議が難しいといった状況が目の前に迫っている」とし「契約書に天変地異などで価格転嫁できるようにしている事業者もいれば、それが甘い約款になっている事業者もいる。基礎工事をやっても、上棟できず、工期・竣工が見えない。プレカット工場でも、新規の工務店の受注は制限している。熊本県、宮崎県、鹿児島県あたりは若干、木材製品に余裕がありそうだが、他の地域では先が見えず、材も値上がりしており、危機的な状況は間近、あるいは一歩踏み込んだ状況」との見方を示した。



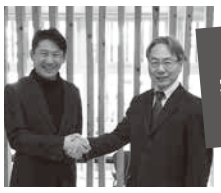
全国木造住宅機械プレカット協会・常務理事の下堂健次さんは、加盟企業の状況を踏まえた上で「ホワイトウッドの柱材とレッドウッドの横架材のほか、間柱が特に不足している。原材料を供給するＡ社は、４月１日から前年実績以上の量を供給できない旨を顧客に通知。Ｂ社は４月～６月まで、昨年から３割減産し、顧客には、前年実績の７割という供給制限を伝えている。５月～６月にかけて状況は悪化する見込みで、プレカット工場が窮地になる」と危機感を訴えた。

複数の要因を報告欧米・中国などの木材需要

同会議で林野庁木材貿易対策室は、国内市場に影響を及ぼしている各国の木材需給の動向などについて報告。それによると、米国では昨年、ロックダウンによる影響で改築や改修が増加したほか、記録的な低金利の住宅ローンなどで住宅着工戸数が急増。米商務省の発表によると昨年10月はその半年前の約1.6倍に相当する10万戸を超えた。それに伴って北米の木材価格が急上昇し、コロナ前の2.5倍になっているという。

欧州では、コロナ禍における経済活動の再開後、DIY需要の増加によって域内の木材需要が回復。米国の木材需要の高まりに伴い、輸出が大幅に増加している。中国はコロナ禍においても丸太輸入量は横ばいで、特にドイツやチェコなどの安価な被害木の輸入量が増加。豪州産の輸入木材から害虫が発見されたことを理由とし、12月から豪州産の全ての丸太輸入を禁止している。東南アジアでは、マレーシアやインドネシアで合板などの生産が停滞し、インドネシアとの国境間移動制限により、合板工場における労働力不足があると指摘した。

米国	ロックダウンに伴い自宅の改築や改修が増加。住宅需要の増加と記録的な低金利施策による住宅ローンによって、住宅着工数が、昨年10月には半年前の1.6倍に相当する10万戸を突破した。第二四半期以降、木材需要が回復し、昨年末には歴史的な水準まで高騰
欧州	経済活動の再開後、堅調な建築市場とDIY需要の増加により、域内の需要が回復。米国での木材需要の高まりに伴い、輸出も大幅に増加した
東南アジア	マレーシアやインドネシアで合板の生産が停滞。インドネシアとの国境間移動制限により合板工場などにおける労働力が不足。悪天候などの影響もあって原木供給も不足
ニュージーランド	木材の伐採、輸出を一時的に停止。再開後も中国への輸出が大幅に回復
中国	コロナ禍においても、丸太輸入量は横ばい。特にドイツ・チェコなどの安価な被害木の輸入量が増加した。同国の関税は、豪州産の輸入木材から害虫が発見されたことを理由に、12月から豪の全丸太輸入を禁止

大好評中！
「新建ハウジング」2021年1月10日発行 新春特集号20・21面の詳細事例もぜひご覧ください
こんな課題を持つ経営者必見！　組織を変える一枚岩戦略会議　チームコーチングで組織を一枚岩に！
☑組織を一枚岩にしたい　☑経営理念やビジョンが浸透していない　☑次世代のリーダーが育っていない　☑社員の主体性を感じない　☑事業承継に不安がある　☑属人的な仕事になっている
導入工務店事例 ››› 小林創建
創業90周年、2,000棟以上。「心地よい空間」のための「妥協なき家づくり」。信州の住まいづくりを牽引していく存在。
チームコーチングのおかげで会議が効率化！
社員の主体性と生産性がアップしました

代表取締役社長の小林稔政さん（写真左）と、コーチの田近秀敏さん（写真右）
チームコーチングによる成果
実績 30戸→44戸 46.7%UP！
品質コンテスト全国大会 第１位受賞！
チームコーチング（以下「TC」）を始めて、言葉では「社員の意見を聞こう」「耳を傾けよう」と言っておきながら、実際は全くできていなかった、ということに気づきました。また、90 年続く小林創建のブランドを社員達に託すことで、社風が生まれ、その社風は事業部統制などの戦略に優先することにも気づきました。
工務店に一番おすすめしたい点は、会議の効率化です。工務店の社員は、基本的にクラフトマンなので、現場に行く、図面を書くことが好きな反面、会議は大嫌いなのです。会議が生産性を落としているのだとしたら、TC は社員にとっても会社にとってもプラスになります。
まずは無料トライアル
参加人数：最低３～６名
時　　間：約３～４時間
対 象 者：経営陣および幹部候補
※交通費別途（WEB 会議も可能）
特典！
無料トライアルにお申込みいただいた方に
書籍「チームコーチング集団の知恵と力を引き出す技術」を
プレゼントいたします！

全国対応中　ご相談だけでもお気軽にお問合せ下さい。
●無料トライアルのお申込み・資料請求はこちらから
TEL.0120-118-296（いちまいいわ つくろう）
https://ichimaiiwa.com
会議を科学する　検索
会議を科学する
モノリス株式会社
〒169-0075
東京都新宿区高田馬場1-28-10三慶ビル4階case shinjuku
〒554-0012
大阪市此花区西九条3-4-6

ウッドショック

解 説

材料手当できず着工できないケースも

国産材、すぐに増産は難しい状況

工務店業界で問題となっているウッドショック。日増しに深刻化する一方の木材不足だが、結論から言えば、この状況はしばらく続く。北米、ヨーロッパといった海外の主要木材産地では、住宅建築が旺盛で木材価格が高騰しているアメリカや新型コロナの封じ込めにいち早く成功して景気が急回復している中国への供給姿勢を強め、それら産地から日本への木材入荷量は激減。国際物流の要であるコンテナが世界的に不足していることも、こうした状況に拍車をかけている。海上運賃が高騰し、高値で売れるところとの取引きでなければ採算が合わなくなっている。　【寄稿／林材ジャーナリスト・赤堀楠雄】

赤堀楠雄 あかほり・くすお
林材ジャーナリスト
1963年生まれ、東京都出身。林材新聞社勤務を経て1999年からフリー記者として活動。専門は森林・林業・木材・木造建築など森や木に関わること全般。長野県上田市在住。著書に「林ヲ営ム〜木の価値を高める技術を経営〜」（農文協）、「図解入門 よくわかる最新木材のきほんと用途」（秀和システム）、「変わる住宅建築と国産材流通」（全国林業改良普及協会）、「基礎から学ぶ森と人の暮らし」（農文協、共著）、「有利な採材・仕分け実践ガイド」（全国林業改良普及協会、編著）など

木造住宅の主要部材であるベイマツ平角・タルキ、ホワイトウッド・レッドウッド集成材、ホワイトウッド間柱、ツーバイフォー住宅用のSPFディメンションランバーといった外材製品は現在、軒並み入手困難になっている。代替品として国産材のスギ、ヒノキ、カラマツ製品への注文が殺到しているが、それら国産材製品も絶対量が不足しているため、各地の製材工場・問屋・材木店では従来からの取引先への納材を最優先しており、新規の注文への対応は後回しにせざるを得なくなっている。

上：ベイマツ平角、レッドウッド集成平角（写真）など、主要な外材製品が入手できなくなっている
中：林業生産現場は機械化が進んでいるが、林業従事者数は限られているため、すぐには増産できない
下：国内の森林資源は充実してきている。互いに支え合う良好な取り引き関係を築きたい

こうした状況を受けて木材価格は急騰しており、木造住宅建築の現場では、施主との契約内容を見直さざるを得ない場面が生じている。それでもスケジュール通りに建築を進められればまだいいが、材料が手当てできないために工事に着手できないケースさえ出てきている。

木材生産のなり手不足も影響

現在、国内の森林は資源的には充実しており、山には利用可能な大きさに育った木がたくさんある。だが、木材生産に従事する人手は限られていて、急に需要が増えたからといって、すぐに増産するような態勢は取れないのが現状だ。林業が盛んに営まれていた時代は、山間地域に多くの人が暮らしていて、農業をはじめとする他の仕事を主業にしていても、山仕事に慣れている人が数多くいた。しかし、外材に圧されて国産材の需要が減少し、林業が長期にわたって低迷する中で、山間地域社会の疲弊が進み、そうした即戦力になる人材はほとんどいなくなってしまった。近畿地方のある森林組合長は「今の林業には正規軍しかいない。いきなり生産量を増やせと言われても対応できない」と話す。

現場の技術も低下している。伐採作業には大型の林業機械が導入され、生産効率は高まっているが、伐り倒した木を需要動向に応じた長さや形状の丸太に仕立てるには、マーケット動向への分析力と1本1本の木の品質を見極める眼力が求められる。

ところが、最近は多少曲がりがある丸太でも買ってくれる合板工場や、品質は問わずに量だけを求める木質バイオマス発電所向けの生産が増えていて、製材に向く品質の丸太を生産する技術が退化してしまった。そのため、不足している柱や間柱の製材用に長さ3mのまっすぐな丸太への引き合いがあるにもかかわらず、合板用に4mの丸太ばかりが機械的に生産されている現場もある。

国内で不足感が台頭しているにもかかわらず、景気が好調な中国向けの輸出価格が上昇しているため、国内需要を素通りする形でスギやヒノキの丸太が輸出に振り向けられるケースも出てきている。

スポット取引き、業界は冷めた目

外材の調達難を国産材へのシフトでしのごうという動きに対し、国産材のメーカーや取扱業者が「スポット取引きは結局、長続きしない」と冷めた目で見ていることも指摘しなければならない。

これまでも外材の供給が減少したことを受け、一時的に国産材へのニーズが高まり、価格も上昇したことがあった。ところが、外材の供給量が回復し、価格も安定すると、「潮が引くように」（西日本の国産材メーカー）国産材への引き合いは減退、価格も急降下するということが何度も繰り返されてきた。需給がひっ迫していない平時でも、常に安い方、安い方と仕入れアイテムを変える需要者もいて、そうした動きに常に翻弄されてきたという苦い思いが国産材業者には根強くある。

今回、彼らが顧客最優先の対応を取っているのには、絶対量が不足しているためなのはもちろんだが、「どうせ長続きしない」「後々、良い付き合いにつながるようなところとなら仕事もしたいが、これまで何度も痛い目にあっているから」などの理由で「新規の注文は断っている」こともひっ迫感に拍車をかけていることは否定できない。

建築業・不動産業
中小企業 経営者様向け
迅速に経営判断したい　管理者育成に苦労している　新人を戦力化したい　工程管理がうまくいかない
このような課題でお悩みではありませんか？
参加無料
DXによる高生産性企業のつくり方webセミナー
さくらホーム　web セミナー　詳細やお申込みはこちらから
セミナー詳細
北陸トップクラスの実績を誇る弊社の事例を交え
中小企業に必要なDXについてテーマ別に詳しく解説！
■ 2019年度 さくらホームグループ AXSデザイン実績
石川県住宅着工件数（建設工業新聞調べ）
5年連続No.1
売上1億円/人 社員一人あたり
残業5h 平均/月 未満
ご興味のあるテーマから、まずはお気軽にご参加ください。（順不同）
標準化セミナー 5/26（水）15:00〜16:00
■ 脱ペーパー・脱エクセルで自社独自の業務をアプリ化！
自動化セミナー 5/14（金）11:00〜12:00
■「デジタル上司」が社員の業務を自動サポート！
可視化セミナー 5/20（木）16:00〜17:00
■ 社内のあらゆるデータをリアルタイムで可視化！
セミナー登壇者
㈱さくらホーム　ビジネスソリューション事業部
さくらホーム　axs design
■主催：株式会社さくらホーム　石川県金沢市藤江北1丁目380番地　■問合せ：ビジネスソリューション事業部　Tel：076-255-3871　Mail：bs-seminar@sakura-home.co.jp